

将来のまちづくり指針を 条例で明記を

町長 しっかり議論していく

春日 隆司 議員



質問 林業大学校と高齢者生活支援施設の検討状況は。

町長 林業大学校は、下川の優位性を活かして優れた提案ができるよう、検討を進める。

高齢者生活支援施設は、長期的な視点に立って新たな施設の必要性を検討していく。

将来のまちづくりの基本的な考え方は

質問 森林整備で広葉樹景観、生態系に配慮し質を高める必要がある。町有林拡大の考え方は。

町長 現在4,700ha。5,000ha達成の方向性を示していきたい。

再質問 地域発展の将来目標を富が地域で循環する内発的發展を基軸に置

くべきである。利潤が地域外へ流出すると経済力は強められない。モノ、カネを呼び込む場合、これまでの歴史から学ぶことは、呼び込んでくる組織のトップと地域のトップの信頼関係がベースとなっている。

町長 地域内だけでは限界がある。24年から様々な会社、団体、自治体と連携協定を締結している。

再質問 締結した協定を見直してどう発展させていくか。外部資本を導入する中で、再生エネルギー資金、環境投資資金がある。企業版ふるさと納税はアプローチしているか。

町長 形になっていないのが実態である。

再質問 再生エネルギーの取組みに設備投資から

廃止までを算定するエネルギー収支を視野に判断基準にすべきである。

町長 下川の資源を活用しながら再生エネルギーをつくり上げていくのが基本である。

再質問 インフラ整備も環境・生態系に配慮したグリーンインフラへ移行すべきである。15年ほど前につくった森林ミュージアム構想につながる。

町長 博物館的な文化や生業が息づくようなクラスタ研究会でつくったものは、今でも生きていると考えている。

再質問 バイオマスの原点は熱を使って収益を子育てに充てる。これを踏まえながら、今後、教育の無償化にもしっかり目を向け、子育て、高齢化

社会に資金を域内で循環すること。これが環境未来都市構想である。

これらを踏まえ、将来のまちづくりの指針を条例で明記することを研究してはどうか。

町長 しっかり議論をしながら必要とした場合には制定も考えていくことになる。

基本財産である森林を望ましい姿で

再質問 元町長は、私たちに残せるのは森林という基本財産である。これを生かすも殺すも次の世代であると言われ、前町長はこれを引き継ぎ望ましい姿を築いてきた。持続可能なまちづくりを進めていくとするならば、一層望ましい姿でつなげていくということを是非共有してもらいたい。

共有してもらいたい。